

# かくだ市議会だより



## 第406回定例会

- 質疑・討論 ..... 2
- 決算審査特別委員会 ..... 3
- 議会日誌 ..... 3
- 議案審議結果 ..... 4
- 会派代表者質問 ..... 5
- 一般質問 ..... 6～11
- 決算審査特別委員会現地調査 ..... 12

## 第405回臨時会

- 本会議の概要 ..... 4

## 【今号の表紙】『実りの秋を迎えた斗蔵山』

秋晴れのすばらしい天気。あちこちの田んぼで稲刈りが始まったが、斗蔵山が秋の装いをするにはまだ早いようだ。

《撮影》角田市小田 柴口 賢一 さん

撮影日：2020年10月2日

場 所：阿武隈急行線南角田駅近くの水田

### 表紙写真・イラスト等募集しています

詳細は角田市ウェブサイト内「かくだ市議会だより表紙写真・イラスト等募集」をご覧ください。



第406回  
9月定例会

第406回定例会は9月3日から9月30日までの28日間の会期で開かれました。

黒須市長の所信表明に対し、3人の会派代表者が質問を行いました。一般質問では11人の議員が、魅力あるまちづくり、黒星病の防除など市政全般にわたり論戦を繰り広げました。

市長から提案のあった教育委員会委員の任命、副市長の選任、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う経済対策を含む補正予算、決算などの議案12件を原案のとおり同意・可決・認定しました。

また、議員提出議案が2件提出され、審議の結果、原案のとおり可決し、請願1件も可決しました。

■一般・特別会計補正予算一覧

(単位：千円)

会計区分	補正額(9月)	補正後の額	
一般会計	1,585,725	18,065,816	
特別会計	国民健康保険事業	1,453	3,416,118
	後期高齢者医療	2,452	356,779
	介護保険	97,249	3,276,503

■一般会計の主な補正予算項目

歳入(収入) (単位：千円)

項目	補正額
新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金(国庫補助金)	190,881
新型コロナウイルス感染症対応事業者支援市町村補助金(県補助金)	49,000
ふるさと納税寄附金	1,100,000

歳出(支出) (単位：千円)

項目	補正額
ふるさと納税事業	549,489
阿武隈急行線災害復旧事業	64,383
小・中学校情報教育推進事業	224,840

議案  
第56号

一般会計補正予算(第7号)

ふるさと納税事業

歳入で、11億円追加し、総額16億円とした一方で、報償費、特産品取扱等業務委託料外、5割相当額を必要経費として追加するもの。

**問** ふるさと納税寄附金の追加は、喜ばしい誤算である。今後、どのように推移していくのか。

**答** 今年度の寄附金は、昨年度同期のほぼ2倍となっている。今後の推移については、新型コロナウイルスの影響等による全国的な景気の悪化等が想定され、あくまで寄附金であり不確定な要素が多いため、過分に見積もることはせず、昨年度実績額と同程度を見込んでいく。

災害対策事業

阿武隈川がはん濫した場合の「想定浸水深」及び「土砂災害警戒区域」等を表示することにより、洪水や土砂災害に対する意識を高め、災害時の適切な避難行動につなげることを目的とするもの。

**問** 200カ所の根拠とどこに設置するのか。

**答** 小中学校周辺、居住地域電柱で、地域別に積み上げていく。また、市民はもとより市内を通行する一般車両等にも周知することも重要であると考えている。委託業務に設置場所の調査も含んでいる。

土地取得事業

土地開発基金により、雨水調整池として先行取得していた田町地内の土地を、普通財産(一般会計)として買い戻すもの。

**問** どのような経過で、買い戻すことになったのか。

**答** 当初の目的であった雨水調整池は、既に中央排水区雨水調整池、及び新丁雨水幹線水路が整備されたことから、その目的が達成できたため、買い戻しを行い、売却を視野に検討中である。



▲角田字田町地内

議案  
第66号

一般会計補正  
予算(第8号)

地域消費喚起緊急支援事業

中小事業者に対する支援事業として、先月実施した「かくだ3割増商品券」の発行を再度実施するもの。

**問** 事業内容は、了承した。ただし、雇止め等の経済弱者に対する販売はどのようなか。

**答** 経済弱者に対する支援策については、検討中であり、今後、早急に対応したい。  
**問** 今後では、遅い。現在、コロナ影響下で生活に苦しんでいる方もいる。そのため、経済弱者に対して、販売ではなく、交付すべきである。  
**答** 経済弱者分の内容を変更し、対応したい。

請願  
第1号

日本政府に核兵器禁止条約への参加を求め、意見書の提出についての請願

総務産業常任委員会での質疑

委員 日本が批准に消極的であるのが問題と考える。なぜ、批准しないのか。

委員 国は批准に消極的である。そのため、全国の議会に請願しているのが現状である。  
委員 資料に記載しているとおり、米国の「核の傘」に依存する日本という文言がある。これが一般的な答えではないか。



令和元年度  
決算  
経常収支比率悪化による財政の硬直化が顕著。早急な改善策を問う。

9月11日に設置された決算審査特別委員会は、実質6日間にわたり審査を行いました。  
質疑については、従来、3つの分科会に分かれ行っていました。今回から、全委員で質疑を行いました。

**問** 経常収支比率が悪化した。改善策は。

**答** これまでも、中長期的な取組みを実施している。経常的な歳入を増やすことは財政構造上難しいので、人件費・扶助費等の経常的な歳出のうち例えば、公債費は繰上償還する等の手立てを講ずること等が考えられる。また、ふるさと納税が増加しているのが、臨時的収入ではあるが、確保することも大事なことで考えている。今年度中に、なお、第5次行財政集中改革プランを策定し令和3年度から実施する。

**問** 台風第19号、コロナ禍等のため国民年金保険料等を払えなかった市民もいると思うが、特別な免除申請をしたのか。

**答** 特別な免除申請はしていません。

**答** 特別な免除申請はしておらず、通常の免除申請で対応した。

**問** (株)まちづくり角田に委託し、効果的な管理運営を行ったと記載しているが。

**答** 元年度決算は、台風第19号や新型コロナウイルスの影響のため客足が伸びず、売上も伸びなかった。また、人件費も多くかかったため赤字となった。今年度は、コロナ禍に対応した集客イベントの開催、9月から利用再開した総合体育館等の利用者の取り込み、経費圧縮等の改善策を実施すると、会社より報告を受けている。

**問** 学校の跡地をどう活用するのか。

**答** 地元の意向を聞いて、検討したい。

論  
令和元年度  
角田市一般・特別会計決算及び水道事業会計

反対討論：八島定雄



財政運営について、経常収支比率105.2%と財政構造が極めて硬直化している。住民サービスを低下させることなく、自主財源を確保することが課題だ。また、マイナンバーカードに健康保険証、運転免許証など紐づけすると、個人情報全部圧縮されて詰め込まれ漏洩・侵害の危険が懸念される。

「角田市水道ビジョンの基本計画」を見直し、小田浄水場、枝野浄水場を廃止し、広域水道全量を受水とする水道事業経営変更認可申請書を宮城県知事に提出を求めるとともに、水道用水及び下水道事業の民営化には強く反対する。

賛成討論：柄目孝治



経常収支比率が、更に上昇し財政の硬直化が深刻であるが、改善に向け行財政集中改革プラン等を策定し、対応していくとのこと。また、(株)まちづくり角田の収支改善については、集客・売上げを増やし、人件費を圧縮すると会社から報告を受けている。下水道事業の公営企業化に伴う上下水道事業所の管理規定も、問題なく業務に当たっていると回答を受けた。

最後に、財政状況が厳しい状況ではあるが、最小の経費で最大の効果に努めた当局の皆様にご敬意と感謝を申し上げ、賛成討論とする。

賛成討論：小島正



台風第19号関連の未曽有の被害対策を含め、予算に計上された各事務事業は、概ね適正なる執行がなされ、成果を収めている。

ふるさと納税の大幅な増額を記録しており、当局担当者各位の積極的な取納の取組みを評価するものである。更なる取納努力の強化を望む。また、悪化している経常収支比率及び実質公債費比率は、確固たる体質改善、財政改革を強く望み賛成討論とする。

議会日誌

7月

- 21日 第405回臨時会招集告示  
会派代表者会議
- 2822日 議員協議会・議会運営委員会  
本会議(第1日)・常任委員会(教育厚生建設)・議会運営委員会・会派代表者会議

8月

- 12日 会派代表者会議  
議会運営委員会  
会派代表者会議
- 2521日 全員協議会
- 272521日 第406回定例会招集告示  
会派代表者会議
- 31日 議員協議会・議会運営委員会

9月

- 2日 議会運営委員会  
本会議(第1日)・常任委員会(総務産業)
- 3日 議員協議会・会派代表者会議・正副委員長会議  
議会運営委員会
- 7日 常任委員会(総務産業)
- 1110日 本会議(第2日)・会派代表者会議
- 14日 決算審査特別委員会(第1日)
- 15日 決算審査特別委員会(第2日)
- 1817日 決算審査特別委員会(第3日)
- 2824日 決算審査特別委員会(第4日)
- 29日 決算審査特別委員会(第5日)
- 30日 本会議(第3日)

10月

- 20日 議会だより編集会議

議案審議結果一覧

●賛成と反対がわかれたもの

○…賛成 ×…反対

会議名	提出者	議案番号	件名	審議結果 (賛成:反対)	会派一心				市民クラブ		日本共産党 角田市議団	志政クラブ		無会派			
					菊地 利衛	小湊 毅	星 隆悦	戸村眞喜夫	星 守夫	小島 正	湯村 勇	日下 七郎	八島 定雄	堀田 孝一	武藤 広一	菅野 マホ	馬場 道晴
第406回定例会	市長	議案第62号	令和元年度角田市一般会計及び各種特別会計歳入歳出決算の認定について	可決 (13:2)	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○
		議案第63号	令和元年度角田市水道事業会計利益の処分及び決算の認定について	可決 (13:2)	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○

議長（渡邊 誠）は採決に加わらない。

●全員が賛成したもの

会議名	提出者	議案番号	件名	会議名	提出者	議案番号	件名
第406回定例会	市長	議案第55号	教育委員会委員の任命について	第406回定例会	市長	議案第64号	債権の放棄について
		議案第56号	令和2年度角田市一般会計補正予算（第7号）			議案第65号	副市長の選任について
		議案第57号	令和2年度角田市国民健康保険事業特別会計補正予算（第2号）			議案第66号	令和2年度角田市一般会計補正予算（第8号）
		議案第58号	令和2年度角田市後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）		議員	請願第1号	日本政府に核兵器禁止条約への参加を求める意見書の提出についての請願
		議案第59号	令和2年度角田市介護保険特別会計補正予算（第2号）			議会案第5号	新型コロナウイルス感染症の影響に伴う地方財政の急激な悪化に対し地方税財源の確保を求める意見書の提出について
		議案第60号	令和2年度角田市水道事業会計補正予算（第2号）			議会案第6号	日本政府に核兵器禁止条約への参加・調印・批准を求める意見書の提出について
		議案第61号	令和2年度角田市下水道事業会計補正予算（第2号）				

皆さんからの請願

●日本政府に核兵器禁止条約への参加を求める意見書の提出についての請願

・仙台市太白区金剛沢1-25-18  
宮城県原爆被害者の会  
ヒバクシヤ国際署名連絡会宮城  
会 長 木村 緋紗子

教育委員会委員の任命

《新任》加藤 真由美  
(桜1区行政区)  
○任期 令和2年10月1日、  
令和6年9月30日

副市長の選任

《新任》牛澤 順  
(藤尾2区行政区)  
○任期 令和2年10月1日、  
令和6年9月30日



牛澤 順 氏

牛澤氏は、昭和62年に角田市役所に入庁し、平成27年から総務部財政課長、平成31年からは総務部長を務めていました。

第405回臨時会

第405回臨時会が7月28日に招集され、1日の会期で行いました

この臨時会では、角田市議会議員補欠選挙で当選した2名の議席の指定を行いました。それに伴い、議席の一部変更を行いました。また、1件の専決処分報告、市長提出議案の令和2年度角田市一般会計補正予算（第6号）を審議しました。

令和2年度一般会計補正予算（第6号）は、歳入歳出それぞれ2億2657万4千円を追加するもので、審議の結果、全会一致で可決しました。補正の主なもの、新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者が減少した阿武隈急行(株)への支援金の追加、利用促進として通学定期券への補助金の追加、ひとり親世帯臨時特別給付金、新型コロナウイルス感染症対策医療・介護施設特別応援金、和牛生産経営継続支援金の追加等です。

インターネットライブ中継視聴者数 延べ 100人



# 会派代表者質問 (新市長の所信表明を問う)

日本共産党角田市議団

日下 七郎 議員

議員▼市長は、所信表明にて「次に、教育の充実であります。子ども達がよりよい教育を受けられる云々」ということで、教育に関して長く触れているが、日本国憲法第92条（地方自治の基本原則）、地方自治法第180条の8（教育委員会の職務権限）の規定で、教育委員会の職務権限となり、市長の担任事務外と思うが。

市長▼教育委員会の職務権限は議員の言うとおりと思うが、しかし、教育についても総じて市の行政の中で、市の福祉と、市民の福祉の増進であれば、私の思い、教育に関するものが所信表明の中に入っても良いと考える。議員▼地方自治法第180条の8（教育委員会の職務権限）「教育委員会は、別に法律の定めるところにより、学校その他の教育機関を管理し、学校の組織編制、教育課程、教科書その他の教材の取

志政クラブ

武藤 広一 議員

議員▼「仙南医療圏において必要な医療を適切に受けられる体制の構築に尽力」とあるが、具体的な内容を問う。市長▼今後、みやぎ県南中核病院は急性期機能に重点を置き、公立刈田総合病院は、回復期機能に重点を置く方向で機能分化し、両病院が連携することで課題解決につながると思う。これらを推進できるように各関係機関に働きかけを行う。議員▼「安心して子供を産み育てることのできる環境の整備」とあり、方途として産科・小児科の復活を働きかけるとあるが、具体的にどのような働きかけをするのか。また、子ども医療費、保育料、学校給食の無償化を目指すところがあるが、具体的な財源確保について所見を問う。

市長▼産科については、仙南2市7町の首長と、みやぎ県南中核病院企業長等が連携し、東北大学に仙南医療圏における分娩継続と周産期医療の充実に関する要望書を提出した。小児科については、小児科の招聘に向けて各方面に情報提供や打診をしたい。財源確保については、様々な事務の効率化や簡素化による経費削減、また、事業の見直しや公共施設の統廃合や民間活用によるコスト削減、更に国・県の補助事業の積極的活用、ふるさと納税寄附金を含む様々な歳入確保策、税収を上げる地方産業の振興等を行い、必要な財源を生み出した。議員▼ピンチをチャンスと捉えて、ウィズコロナの時代を生き抜く足腰の強い地域産業づくりに、産・学・官・民が連携しオール角田で取組むとあるが、ピンチをチャンスと捉えてについての考えを問う。

市長▼ピンチをターニングポイントと捉え、前向きに乗り越えることである。議員▼「私の行う市政の主役は市民」で「角田市の新時代を生き抜く力」として「市民力」を挙げているが、具体的にどのようなものか。市長▼市民が、自主的・自発的に地域課題の克服に取り組もうとする力、地域にある課題の解決、できることは自分でやるという意思を持った市民の皆様の力である。その市民力は、市民が連携し協力することで、より大きなものになる。議員▼地域の問題を、自然発生的に、自主的に地域の方が問題を解決する、という回答だが、行政は何もしないということか。市長▼そうではなく、下支え、市民の方々の意見聴取、共に考え解決策を探る、といったことをサポートできる体制を取っていく。


会派 一心

小湊 毅 議員

議員▼令和元年度の経常収支比率が、105.2%と悪化した。今後、具体的にどのような方策をとるのか。市長▼持続可能な行政経営の実現は大きな課題であり、現在の社会経済情勢からすれば、解消には相応の時間と努力を要する。具体的な方策は、次期行財政集中改革プラン等の中で明らかにしていく。議員▼給食費の無償化は、市長の公約である。財政の見通しを図りつつ等と、言わずに、無償化をすぐにもやるべきではないか。市長▼令和2年度歳出予算では、学校給食費の材料費等は約1億2千万円のうち、約1億円が保護者負担であり、この分の財源確保が必要となる。現在の給食費は、要保護世帯又は準要保護世帯は無償となっている。何とかふるさと納税で、という思いもあるが、今の制度は不安定な要素がある。そういったことも視野に入れながら考えていく。

一般質問とは、角田市のさまざまな課題等に対して、市長や教育長などに対し、事務の執行や将来の考えなどを質すことです。  
質問した議員ごとに要約してお知らせします。

質問議員 (質問順)	質問項目	頁
星 隆悦	「道の駅かくだ」活用促進と黒字経営の定着について 身の丈にあった角田市の財政運営について デマンド型乗合タクシー、福祉タクシーの利用拡充について 安心・安全なまちづくりについて	6
堀田 孝一	市長の公約について その他の質問 ・新型コロナウイルス感染症対策について	7
菊地 利衛	若者世代の定住率を上げるための施策について	7
菅野 マホ	「女性目線のやさしさ」まちづくりについて	8
小島 正	県道角田越河線の見直しについて その他の質問 ・災害から被害を軽減する措置について	8
馬場 道晴	少子化・子育て支援について 終活相談窓口設置とエンディングノート配布について 総合体育館西側歩道設置について	9
小湊 毅	角田市の「水」事情について	9
戸村眞喜夫	角田市の園芸振興について	10
八島 定雄	角田自治センターをリフォームして活用することについて その他の質問 ・「気候非常事態宣言」を角田市でもについて ・市営住宅の入居に際しての連帯保証人不要について	10
相澤 邦戸	防災について 保育料、子ども医療費、学校給食費無償化について	11
日下 七郎	少人数学級実現について その他の質問 ・ナシの黒星病の防除について	11



## 道の駅かくだ活用促進と黒字経営の定着について

星 隆悦

議員▼「株まちづくり角田」の赤字(10'21千円)の原因と改善策については、  
市長▼赤字の原因は、台風災害とコロナによる売上減と人件費増である。改善策は、外販強化とPR強化さらにコスト削減に取り組み。  
議員▼赤字に関する取締役会及び監査委員の意見は、また、銀行の経営診断を受けたかどうか。

市長▼意見は特になかった。また、銀行の経営診断を受けているかどうか分からない。  
議員▼「株まちづくり角田」の現状の運営体制は、市長▼1個人となった前市長の大友氏が代表取締役社長を続けているが、健全ではないので、角田市からも取締役を選出する手続きを進めていく。  
議員▼赤字補填の市税投入の方針は、市長▼株まちづくり角田は、独立した一つの会社、経営体なので、赤字補填は考えていない。  
議員▼赤字の責任は誰が取るのか。  
市長▼建物、施設は角田市の責任はあるが、会社運営は現取締役社長である大友氏が、その責任があると考えている。  
議員▼黒字経営への市としての支援策については、市長▼提案のあった道の駅かくだに、消費者目線の創設や移住相談等の窓口の設置を検討していく。

市長▼現在集約中のため、今年度中に公表する予定。  
議員▼コロナ不況による来年度の市税の減少は想定されるが、対応策は、市長▼試算は、申告後でないとかでないが、市民福祉の確保を図り、支出を切り詰める。  
議員▼県南中核病院へのデマンド型乗合タクシーの乗り入れの大河原町の働き掛けは、市長▼現制度では、民業圧迫のため実現は困難。新システムを構築し、関係自治体と相談。  
議員▼中核病院利用者への高齢者福祉タクシー支給の限度額の引き上げは、市長▼利用者間の公平性や財源不足のため、実現困難。  
議員▼中島行政区からの水害対策の要望の現状と見直しについては、産業建設部長▼阿武急と交差する県道や農道のトンネルから踏切等は、困難と思える。市道のかさ上げは仮復旧し、裏町排水機場の能力アップは令和6年の雨水工事に対応。小田川水門の排水ポンプ設置は、江尻排水機場より大きなポンプが必要で、実現困難。小田川改修はセミバック堤防で対応する。

議員▼第4次行財政集中改革プラン評価シートの進捗状況は。

身の丈にあった角田市の財政運営について

安心・安全なまちづくりについて





## 市長の公約について

堀田 孝一

議員▼市長は選挙選での公約として、「命」「子」「連」「業」の4分野に分け、「いのちを守り、豊かに育む」、「子どもたちと共に、生きる力を培う」、「国・県・市の連携をさらに強く」、「地域産業の復興！農・林・商・工業を全力で支援」することを掲げ、当選されたが、これらを実現するためには財源が必

要である。今後、人口減少等考えれば、市税は減少傾向に推移していくものと思われ、その中にあってふるさと納税は、有難い財源となっている。今後、どのような考えを持って「ふるさと納税制度」に取り組みのか。

市長▼これまで通り、法令を順守しながら、ふるさと納税ポータルサイトを充実させて、納税しやすい環境を整える取り組みを継続するとともに、返礼品に多くの地場産品を採用することで、地域産業の振興を図っていきたい。ふるさと納税寄附金は、本市にとつて大変貴重で重要な財源となっている。本制度がいつまで続くか分からない不安定な要素は否めないが、制度が存続するかぎりしっかりと取り組んでいく。

議員▼昨年度、角田市のふるさと納税額は1,644,927千円と、県内35市町村の中で断トツの1位である。現状に安堵することなく、さらにも上を目指し、体制を強化すべきである。

市長▼不安定財源と言いつつも、角田市の財政としては非常に大きい。しっかりと職員が活躍できる体制、さらには、地場産品、地場産業と連携していただける体制をしっかりと組んでいきたい。

議員▼県、国からの安定

した財源が重要であり、しっかりと連携を取り、補助事業等も有効に活用する必要があると考えるが、所見を問う。

市長▼補助事業をさらに積極的に活用するため、しっかりと事業計画を定めた上で、市長自ら県や国、各庁へ訪問や連絡、更には要望活動等により、積極的に情報収集を行い、財源の安定確保につなげていきたい。

議員▼財源を得る方策と並行し、庁内における経費削減も、実施すべきと考えるが、所見を問う。

市長▼ICT活用等による事務効率化や簡素化に伴う経費削減を含め、非効率または効果の見られない事業の見直し、公共施設の統廃合や民間活用によるコスト削減により、財政の健全性を確保していきたい。

議員▼市長は公約で、「市民力」を重視、強調しているが、「市民力」を高めるために、何をすべきか、所見を問う。

市長▼行政側が市の状況や市政運営について、説明責任を確保し、透明性を向上させること。さらには、市民の多様な専門性、知識、実践力を市政運営の原動力として受け入れ、地域や市の課題解決に向け共に話し合い、共通認識の下、連携をしていくことである。

(若者世代が激減)  
議員▼角田市の人口は、直近20年間で若者層を中心に極端に減少した。特に、25〜29歳では半減以下になった。

角田市の未来のために、若者世代の定住率を上げなければならぬ。

市長▼角田市を元気な町にするためには、若者の定住が重要である。一方で就学や就業で転出する人が多いが、婚姻を機にUターンする方も多い。郷土愛を醸成することが大切だ。

(多種多様な職種が必要)  
議員▼若者世代の定住率を上げるためには、若者達が多種多様な職種から自分に合った仕事を選べる環境が必要だ。特に、IT産業や第3次産業に分類される職種の希望が多いが、角田には少ない。

市長▼商工会会員内訳やハローワークの求人状況を見ると、第3次産業の求人は、少なくない。市内事業者は、更なる求人をお願したい。

議員▼第3次産業は就業者全体の75%を占めると



## 若者世代の定住率を上げるための施策について

菊地 利衛

言われている。多様な職種は、若者定住はもちろんだ。都会から角田へ呼び寄せる原動力にもなる。

(廃校舎活用による先端産業企業誘致について)  
議員▼次年度から小・中学校が次々と廃校になるが、その活用ビジョンはあるか。

市長▼東根小は自治センター、金津中は金津小になる。その他は、地域の方々と相談して決めたい。

議員▼児童館を含めれば、廃校は10箇所以上になる。全国では膨大な数になり、その利活用は競争になる。市主導で、いち早く体制を整備する必要がある。

今年、南相馬市にロボットテストフィールドが出来、既に東北大学構内には、中小企業基盤整備機構によるベンチャー向け施設があり、各々数10社の最先端技術を持つ企業が入居している。

角田にもJAXAがあり、技術提携や施設の貸与も可能である。南相馬、角田、仙台は先端技術産業で繋がっている。廃校舎活用による誘致は有効だ。角田の命運がかかっているので、いち早く誘致に向け活動すべきである。

市長▼学校は地域にとって思い入れがある。意見を聞いて進めたい。(阿武急の利用促進について)  
議員▼公共交通の利便性向上も、若者定住率を上げるために重要だ。特に阿武急急行線は、角田の未来を語る上で欠かせない。利用促進の一環で、減少傾向にある通勤者の利用を促すため、パーク&ライドに対し二酸化炭素排出削減に寄与することを理由に、環境ポイントを付与してはどうか。

市長▼車から鉄道利用に切り替えた方へ助成事業を実施したが、成果がなかった。

議員▼駅周辺や街中での企画、催事を恒常的に行うことで利用者を増やすとともに商店街の活性化に繋がる。企画・実践集団を組織してはどうか。

市長▼それこそ市民力の連携になるので期待する。



## 「女性目線の『やさしいまちづくり』」について

菅野 マホ

議員▼市長の所信表明にある「新時代の角田市のまちづくり」は、子育てや衣食住の現場を知り、気配りができる、女性の意見〴〵を市政に反映させてこそ、実現可能だと考

える。「もっと子育てしやすい環境を」

子育て世代の女性が角田に求める第1位：「小児科の招致」について、可能性と見解を問う。

市長▼現在、市内で2つの医療機関が診療可能。宮城県は医療人材対策として、新設の東北医科薬科大学の卒業生を毎年30名、県内に派遣する計画があるが、自治体病院が対象なので、今後拡充するか注目したい。

議員▼第2位：「室内の遊び場設置」について、各自治センターに遊具を設置し、親子サロンを開設する案を含め、現状と今後の計画を問う。

市長▼子育て支援センター等での親子遊び場開放がある。各地域ですぐ

に利用できる。子育て遊び場サロンの的なものは、多くの経費はかからず、お子さんと楽しい時間を過ごし、子育て中の保護者の方々が情報交換するのに有効なので、考えていくべきと思う。

議員▼「心配りのある行政サービス」

市民より「窓口に行っても誰も気がついてくれない」、「思いやりのない言葉が言われた」他、窓口対応について改善を求める声が多い。お客様が気持ちよく迅速に用事を済ませ、お帰りになれるよう努力をすることは大切なこと。全員が受付の認識を持つことや、「総合窓口」を設置する案について所見を問う。

市長▼窓口サービスにおいて不快な思いをされた市民の皆様に対して深くお詫びをする。総合窓口については、他の市町村で目にしてはいるがとてもいいことだなと思う。市民の皆様への庁舎での対応を改めて検討したい。

議員▼一方、職員の昼食場所や休憩場所は確保されているか等、仕事環境〴〵を見直すことが必要なのではないか。また、市役所は乳幼児を連れられたお母さんが授乳する場所がなく、おむつ交換用ベッドも使い勝手が悪い

障害のある方やお客様が利用する1階のトイレは古くて狭くリフトフォームが必要等。女性フーキン（仮称をつくり、市役所の環境作り）についてアイデアを出してもらおう案について、所見を問う。市長▼仕事のしやすい環境整備は、重要なことであると考えている。職員厚生室、地下に食堂や更衣室もあるが、いずれも資料置き場になっている。残業は、コロナ対応等によって例年よりも多くなっている。女性の気配りを生かすための女性のワーキンググループの提案については、大変興味深いものだ。必要に応じて検討していきたい。

議員▼先般の私の一般質問に対し、前大友市長は次のように答弁した。「県に確認をしたり、あるいはそういう提案も私からもさせていたいただいている。」との答弁であった。

議員▼先般の私の一般質問に対し、前大友市長は次のように答弁した。「県に確認をしたり、あるいはそういう提案も私からもさせていたいただいている。」との答弁であった。

## 県道角田越河線の見直しについて

小島 正



に大きな被害をもたらした。県道越河角田線の見直しについては、幾度も要望書を提出しているが、強化した県道越河角田線の見直しを行い、道路の整備をすべきと思う。

市長として県に積極的に働きかけてほしい。

議員▼県道越河角田線につきましては、白石市の国道4号から本市の国道113号、これを結ぶ路線である。議員ご指摘のとおり、この路線は、昨年の台風第19号により道路の決壊や流出など数カ所の通行止めが発生している。路線の見直しについて、前市長が第401回定例会で答弁したとおり、現在は、現状復旧を優先的に進めており、路線の見直しは検討していない。本市としては、この路線が地域住民にとって非常に重要な生活路線であると考えているので、安心して通行できるように県に求めたい。

議員▼県道越河角田線の道路の上を阿武隈急行線が運行していることで、台風第19号の際には、小田川が氾濫し通れなくな

った。通行止めよりも、

通れなくなったというところが問題である。よって私が常に要望していることは、強化した道路、つまり、住社橋と県道越河角田線を直結することによって、多くの角田市民の人たちが、安心・安全を図られるであろうと、このように思っているが答弁を願う。

市長▼これについては、昨日もこちらから回答をさせていたいただいたとおりである。本日に角田市の道路、ライフライン、これらの整備、大変重要かと思っている。できるところから強化をして、さらに安全安心の環境をつくっていくことは、これからも当然力を注いでいかなければいけないところと考えている。この辺についても、前回の、前大友市長から、「これは県には確認をしたり、あるいはそういう提案も私からさせていただいている。」ということにあるように、継続して提案させていただきたいと考えている。

議員▼ご期待を申し上げます。

議員▼ご期待を申し上げます。

議員▼ご期待を申し上げます。

議員▼ご期待を申し上げます。

議員▼ご期待を申し上げます。

議員▼ご期待を申し上げます。

議員▼ご期待を申し上げます。

議員▼ご期待を申し上げます。

議員▼ご期待を申し上げます。

議員▼ご期待を申し上げます。

議員▼ご期待を申し上げます。

議員▼ご期待を申し上げます。

議員▼ご期待を申し上げます。

議員▼ご期待を申し上げます。

議員▼ご期待を申し上げます。

議員▼ご期待を申し上げます。

議員▼ご期待を申し上げます。

議員▼ご期待を申し上げます。

議員▼ご期待を申し上げます。

議員▼ご期待を申し上げます。

議員▼ご期待を申し上げます。

議員▼ご期待を申し上げます。



# 11人の議員が市政を問う



## 少子化・子育て支援について

馬場道晴

議員▼安心して子どもを産み育てることのできる環境整備として、産科・小児科の復活、子ども医療費・保育料・学校給食費の無償化を早急に実現すべきである。市長の考えを問う。

議員▼今年4月から、静岡県磐田市では「終活おうえん窓口」を市役所市民相談センターに開設した。終活に関する高齢者や家族の不安・悩みを聞き、アドバイスをしたり、必要に応じて専門機関・担当部署を紹介している。

### 終活相談窓口設置とエンディングノートへの配布について

議員▼産科医、小児科医について、角田市として「いらいっしやいプラン」のような医師を招聘するための施策を考えていないのか問う。

市長▼医師招聘の事業について、必要であれば検討したい。そのことも当然手段の範疇に入ると想定している。

市長▼前市長が答弁しているとおり、令和3年度当初予算に計上したい。

議員▼6月の角田市議会第404回定例会で一般質問を行い、前市長からは「来年度の予算措置で何とか対応できれば」と思っている」と答弁を頂いた。来年度予算で総合体育館西側道路設置の実現について市長の考えを問う。

### 総合体育館西側道路設置について

市長▼終活相談窓口は、新たな開設ではなく、地域包括支援センターの相談窓口で、必要に応じて専門機関や他部署と連携を取りながら対応したい。エンディングノートの配布は、皆様が活用できるように検討したい。

また、充実した人生や家族との情報共有を支援するため、磐田市版エンディングノート「私と家族のあんしんノート」を作成し、6月から配布している。実際に2年間認知症を患ったおじ夫婦を家族に代わって介護してきた方は、その経験から元気なうちに本人の意思や不動産など財産の管理を共有していくことの重要性を痛感したと語っている。本市も、終活相談窓口設置とエンディングノートの配布を行うべきである。市長の考えを問う。



## 角田市の「水」事情について

小湊 毅

議員▼水道事業は、角田市の全地域が配水対象地域に指定されているが、未配水地域が残っている。今後どのようにしていくのか。

市長▼地方公営企業（水道事業）は、企業経済性の発揮と公共の福祉の増進を経営の基本原則とし、経営に要する経費は、経営に伴う収入、料金をもって充てる独立採算性が原則とされている。公共の福祉の増進の立場から、市内全域を給水区域としており、未給水区域の解決は進めなければならぬ。しかし、未給水区域を解消するための資金が乏しく、給水区域の見直しを検討しなければならぬ状況にある。

議員▼給水条例等が制定されて50年程経過しているが、未だに普及率が97・1%である。

市長▼50年近くそういった状況であることは良いことではないと考えるが、水道管を全ての所まで配置するには莫大な資金がかかる。水がない、水道がないということは、公共の福祉という点で、非常に良くないので、井戸水等に対してのケアをさらにしていく。

議員▼コロナ禍により収入が大きく低下し、生活にお困りの方がいる。水道料金を下げるといふ支援事業を行うべきではないか。

市長▼コロナ対策として、何がしかの手当をさらにすべきであると考えている。議会から提案された2か月間減免を行う場合、水道料金2か月で約5,000万円ほどの経費がかかり、水道事業所の現在の状況では、単年度では赤字になりかねない。どんな方策がいいのか、もう少し調べ、何がしかの手当をするということを取前前提に取り組んでいく。

議員▼今後、昨年の台風第19号と同様、もしくはそれ以上の大雨が降ると考えるべきである。角田市では、内水対策が重要

であることは申し上げるまでもないが、阿武隈川の水位が上がってしまうとなすべがない。市長は、国・県との連携、自治体間の連携を強くうたっている。阿武隈川の水を直接海に流すルートを作るということを前向きに取り組んで頂きたい。

市長▼阿武隈川の河川整備の現計画は、昭和61年8月5日の豪雨災害と同規模の洪水が発生しても阿武隈川本流から浸水被害が出ないよう計画されている。改修工事が実施されてきている。まずは完成堤への整備や、断面不足を解消することが重要と考えており、河川改修を早急に実施するよう、強く要望していきたいと考えている。いずれかの時期に、そういった計画も例えば案として提案できる場はあるかと思っている。その時期は検討させて頂きたい。



## 角田市の園芸振興について

戸村 眞喜夫

(梨生産について)

議員▼今年の梨生産は、4月の極端な凍霜害と7月までの長雨による黒星病の発病で主力の幸水が7割減、豊水・新高も5割減の大減収になった。特に黒星病は去年も大発生し毎年被害が拡大しており、このままでは生産者の所得が激減し、後継者もなくなり、産地が壊滅してしまうのではないかと危惧されている。対応策としては、最低でも落葉処理、適期の薬剤防除の徹底や周辺の廃園処理が必要とされているが、多額の費用が掛かるのが懸念材料である。角田市として、県内でも有数の梨産地を維持していくうえでも、何らかの生産者への支援が必要ではないか。

かり調査を行い、関係機関と連携して対策や必要な支援策について検討していく。

(担い手育成支援について)

議員▼多くの稲作経営の担い手農家から、規模拡大したいが労働力が足りなくてできないという声があがっている。現在、地域の農家から耕作請負いを頼まれても、これ以上できないと断っているのが実情である。この状況が続けば、将来、耕作放棄地が増え、優良農地が無くなってしまふ。また、園芸農家からは、売り先には十分余裕があるのに、作付面積を増やしたり、ハウスを建てて規模拡大して生産量を増やしたいが、現在の労力では限界であるという声が聞こえてくる。同じような状況下で、現在、丸森町では平成18年からシルバー人材センターと連携して、認定農業者を対象に20万円限度でシルバー

人材センターの支払いの1/2を助成する)を14年間も実施し、約1/3の認定農業者の利用があり、農業経営にかなり貢献していると聞いている。そこで、角田市としても担い手経営の雇用労働の現状を調査し、農作業支援におおいにシルバー人材センターを活用する方法を考えるべきではないか。

市長▼人手が必要なきに臨時的雇用を後押しするような支援策は、確かに農業者負担を減らすことに効果的であると考えられるが、助成金は恒常的な経費の支援ではなく、具体的目標を立てその達成のために運用すべきだし、運用を間違えると常用雇用の機会を奪う危険性もある。丸森町のこれまでの状況を伺いながら、慎重に検討する。

(梅生産と梅干加工について)

議員▼平成30年度及び令和元年度の角田自治センターにおける施設利用状況について問う。

市長▼平成30年度の利用件数は1,505件、利用者数は1万3,605人で、令和元年度の利用件数は1,246件、利用者数は1万980人であった。利用件数及び利用者数の減少は、台風第19号災害及び新型コロナウイルス

議員▼軽運動場の利用頻度が、平成30年だと45.1%、令和元年度だと43.6%、約半分近い利用です。施設の特徴は、使用料金が無料だということと、軽運動場があることです。身近なところで軽運動ができなくなるのは、すごく寂しい感じがするが、どう思うか。

市長▼それがなくなることは、代替のものがあればいいけれども、確かに使っていたところが使えなくなることは、ある程度の残念感はあるうかと思っている。

議員▼この施設は本当に便利で使い勝手がよく、なくさないでほしいという市民の声はないのか。まちづくり交流課長▼街なかの軽スポーツを愛する方々が集まっているので、安全な利用として、この現状でできるのか、内部で検討している。

議員▼角田自治センターは、市民相互の交流の促進、地域づくり活動の振興、市民の文化の向上及び福祉の増進を目的として、各種事業を実施している。施設自体は老朽化が進み、多数の不具合が発生している。その改修には多額の費用を要することが推察される。また、軽運動場がなくなってしまうことで利用者の不満も出てくると思うが、これにはほかの既存施設の利用ができるように併せて検討してまいりたい。

議員▼有価な補助事業を見つけて、起債して、借金にはなるけれども、リフォームして利活用がベターだと思ふ。壊すという考えなのか。どういう計画か。

市長▼この建物についてどうするかを検討している段階ですので、壊すとかそういうところまで至ってはいない。

議員▼公共施設の強靱化、長寿命化計画の中に組み込んで、有効利用していく方向を追求してみてもどうか。

市長▼リフォームをするか、どうしても壊さざるを得ないのか、いろいろな要望も勘案しながら検討をさせて頂きたい。

## 角田自治センターをリフォームして利活用することについて

八島 定雄



イルス感染症の影響等によるもので、259件、2,625人の減少となった。利用目的で、会議室は打ち合わせのほか合唱などに利用され、和室では手芸、集会所ではオカリナの愛好家団体が利用しています。2階の軽運動場は卓球の利用が最も多く、大人だけではなく、学生にも利用されている。

議員▼軽運動場の利用頻度が、平成30年だと45.1%、令和元年度だと43.6%、約半分近い利用です。施設の特徴は、使用料金が無料だということと、軽運動場があることです。身近なところで軽運動ができなくなるのは、すごく寂しい感じがするが、どう思うか。

市長▼それがなくなることは、代替のものがあればいいけれども、確かに使っていたところが使えなくなることは、ある程度の残念感はあるうかと思っている。

議員▼この施設は本当に便利で使い勝手がよく、なくさないでほしいという市民の声はないのか。まちづくり交流課長▼街なかの軽スポーツを愛する方々が集まっているので、安全な利用として、この現状でできるのか、内部で検討している。

議員▼角田自治センターは、市民相互の交流の促進、地域づくり活動の振興、市民の文化の向上及び福祉の増進を目的として、各種事業を実施している。施設自体は老朽化が進み、多数の不具合が発生している。その改修には多額の費用を要することが推察される。また、軽運動場がなくなってしまうことで利用者の不満も出てくると思うが、これにはほかの既存施設の利用ができるように併せて検討してまいりたい。

議員▼有価な補助事業を見つけて、起債して、借金にはなるけれども、リフォームして利活用がベターだと思ふ。壊すという考えなのか。どういう計画か。

市長▼この建物についてどうするかを検討している段階ですので、壊すとかそういうところまで至ってはいない。

議員▼公共施設の強靱化、長寿命化計画の中に組み込んで、有効利用していく方向を追求してみてもどうか。

市長▼リフォームをするか、どうしても壊さざるを得ないのか、いろいろな要望も勘案しながら検討をさせて頂きたい。

市長▼黒星病は、伝染病であるため集団的な対策を講じたほうが効果的で、廃園処理は樹木自体を処理するため、個人の負担が大変大きいと認識している。今後、改めてしつ

かり調査を行い、関係機関と連携して対策や必要な支援策について検討していく。

(梅生産と梅干加工について)

議員▼平成30年度及び令和元年度の角田自治センターにおける施設利用状況について問う。

市長▼平成30年度の利用件数は1,505件、利用者数は1万3,605人で、令和元年度の利用件数は1,246件、利用者数は1万980人であった。利用件数及び利用者数の減少は、台風第19号災害及び新型コロナウイルス

議員▼軽運動場の利用頻度が、平成30年だと45.1%、令和元年度だと43.6%、約半分近い利用です。施設の特徴は、使用料金が無料だということと、軽運動場があることです。身近なところで軽運動ができなくなるのは、すごく寂しい感じがするが、どう思うか。

市長▼それがなくなることは、代替のものがあればいいけれども、確かに使っていたところが使えなくなることは、ある程度の残念感はあるうかと思っている。

議員▼この施設は本当に便利で使い勝手がよく、なくさないでほしいという市民の声はないのか。まちづくり交流課長▼街なかの軽スポーツを愛する方々が集まっているので、安全な利用として、この現状でできるのか、内部で検討している。

議員▼角田自治センターは、市民相互の交流の促進、地域づくり活動の振興、市民の文化の向上及び福祉の増進を目的として、各種事業を実施している。施設自体は老朽化が進み、多数の不具合が発生している。その改修には多額の費用を要することが推察される。また、軽運動場がなくなってしまうことで利用者の不満も出てくると思うが、これにはほかの既存施設の利用ができるように併せて検討してまいりたい。

議員▼有価な補助事業を見つけて、起債して、借金にはなるけれども、リフォームして利活用がベターだと思ふ。壊すという考えなのか。どういう計画か。

市長▼この建物についてどうするかを検討している段階ですので、壊すとかそういうところまで至ってはいない。

議員▼公共施設の強靱化、長寿命化計画の中に組み込んで、有効利用していく方向を追求してみてもどうか。

市長▼リフォームをするか、どうしても壊さざるを得ないのか、いろいろな要望も勘案しながら検討をさせて頂きたい。





## 防災について

相澤邦戸

議員▼角田市では洪水浸水想定地域が39ヶ所、土砂災害警戒区域は3ヶ所あり策定が義務付けられた「避難確保計画」について現在7ヶ所しか制定されていない。令和2年8月24日に説明会があり、9月末日までの計画の提出を求めているが、その後どのように支援を行っているのか。

議員▼「避難確保計画」の提出時にヒアリングを行い適宜指導や助言を行っていく。また、関係機関や市の福祉施設の担当課と連携し避難訓練の実施や状況把握に努め、支援を行う。議員▼計画の実践が一番大事と思うが訓練の時、市で支援するのか。市長▼事前の要請があれば随時対応していく。議員▼角田の道の駅は建設当初から「防災拠点」として位置づけられている。昨年の台風第19号の折には、被災者は何人位で、どんな状況であったか。市長▼被災者及び復旧応援者の人数は集計していない。被災者や復旧応援者の集合、待機、休憩場所として利用された。議員▼「道の駅かくだ」の説明書や条例の中に、「防災拠点」として市民福祉の向上を図る、また指定管理仕様書の中にも「避難所として開設し避難者を受け入れ市に報告すること」等明記してあるが、このことについてどう。市長▼車両の出入り等、概略でもカウントされるべきであった。今後、防災計画の見直しの中で、防災拠点としての機能を再確認しながら連携を改めていく。議員▼令和元年度の事業報告では台風第19号に対応した、また避難訓練をしたとあるが令和2年度

の事業計画には防災拠点としての計画が記されていないが。市長▼令和2年度も防災拠点として避難訓練事業をしていくと思うので、計画の中に明記するよう指導していく。議員▼無償化とはそれぞれ所得制限を外して行うと理解してよいのか。市長▼そのように理解してよい。議員▼子ども医療費については令和3年10月から実施と聞いている。他の2つについては、いつ頃に実施か。市長▼第6次長期総合計画の中で検討していく。議員▼第6次長総が実施されるのは令和4年になる。市長の公約として掲げられたものであるのか、実施時期をもっと早くすべきではないかと思うが。市長▼実施したい思いはあるが、慎重に検討していきたい。議員▼必要な財源はどの位か。また、どのようにそれを確保していくのか。市長▼全体で1億8千万円となる。次期行財政集中改革プランに基づく各方針に取り組みしていく中で財源を生み出していく。議員▼公約であったので子育て中の市民の期待は大きい。早期実現を望む。

保育料、子ども医療費、学校給食費無償化について



## 少人数学級実現について

日下七郎

議員▼緊急事態宣言が解除され、6月1日から全国の学校が3ヶ月ぶりに再会した。日本共産党の「学校再開に当たっての緊急提言」及び全国知事会、全国市長会、全国町村会、三会長の「新しい時代の学びの環境整備に向けた緊急提言」があるが、40人学級では、感染防止の3つの基本、身体的距離の確保、マスクの着用、手洗いのうち、身体的距離の確保が出来ないという重大な問題に直面しており、新型コロナウイルス感染症対策専門家会議は、「新しい生活様式」として身体的距離の確保を呼びかけ、人との間隔はできるだけ2m（最低1m）空けることを基本としている。しかし、公立小・中学校の普通教室の平均面積は64㎡であり、40人学級では、2mを空けることはおろか、1mを空けることも不可能で、身体的距離の確保と大きな矛盾となっている。ここで、市長、教育

長に、身体的距離の確保と40人学級の矛盾について、どのように受け止めるか、少人数学級実現についての答弁を求め。市長▼教育長に答弁を願う。教育長▼今般の新型コロナウイルス感染症危機の状況において、現在の教室の広さ64㎡で、2mの間隔を確保できる少人数学級の実現は、議員の述べたとおり、大変よい方策であると考え。しかし、児童・生徒の学びの保障を喫緊の課題として実現していかなければならない学校現場では、新型コロナウイルス感染症対策専門家会議の提言により、文部科学省において作成された学校再開ガイドラインの中に示された、感染リスクは3つの条件が同時に重なる場を徹底的に避けることが重要とした点を根拠に、教室内等で工夫と配慮を行っている。2m間隔確保が難しい教室においては、常時換気を行い、対面会話を

避ける等の方法を徹底。少人数学級の実現は、現在、全学年35人学級（現在35人学級実施は小学1・2年、中学1年）を目指して、県教育長部会が県教育委員会に要望しており、新型コロナウイルス感染症危機は、今後のICT教育や働き方改革とも連動し、少人数学級実現に向けた動きを加速させるものと捉えている。議員▼学校内でのマスクの着用状況は。また、不清潔のマスク着用の児童・生徒の交換マスクの備蓄が必要では。教育長▼集団でいる場合はマスクの着用を義務付けているが、熱中症の危険があるときは、先生の判断で外してよいと指示。備蓄については、清潔なマスク着用の配慮を家庭にお願いするしかない。議員▼感染防止の手洗いや水道水が冷たくなるので温水設備が必要と思うが。教育長▼現在は難しい。

# 決算審査特別委員会の 現地調査

決算審査特別委員会第1日目（9月11日）に、  
当局からの説明を受け現地調査を行いました。



【総合体育館アリーナ照明設備等改修工事】



【角田中央公園災害復旧工事】



【災害廃棄物処理事業】



【左関排水機場整備工事】



【西根小学校法面改修等工事】



【住社橋橋梁上部工架設工事】



【角田小学校南校舎外壁補修工事】

## 編集後記

今年の秋は、長雨にはなりませんが、大雨に見舞われることもなく穏やかな秋になりました。しかしながら、昨年の台風第19号からの復旧やコロナ禍対策等、様々な問題に直面しております。今年7月の市議会議員の補欠選挙により、新たに2名の議員が加わりました。議員としての本分である「市政に対するチェック」そして、「市政への政策提言」を今後ともしっかり行って参ります。皆様のご意見、ご指導頂けますようお願い致します。

議会だより編集会議

委員 小湊 毅

## 12月定例会の予定

会期  
12月3日(木)～12月21日(月)

本会議の日程（午前10時開会）	
12月3日	提案理由の説明
14日	質疑・自由討議
17日	討論・表決・一般質問
18日	一般質問
21日	最終日

※日程は変更になる場合があります。  
※新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、3月2日より当面の間、本会議等の傍聴を中止しておりますので、ライブ配信でご視聴ください。

請願・陳情の提出は

11月26日(木)まで

ライブ・録画配信をやっています

<http://www.kakuda-city.stream.jfif.co.jp>

インターネットを利用したパソコン・スマートフォン・タブレット端末及び市役所東庁舎1階の市民ホールのテレビでもライブ中継がご覧になれます。



また、インターネットによる録画中継の配信も行っております。

第406回(令和2年9月)定例会

インターネットライブ中継視聴者数 延べ 893人

インターネット録画中継視聴者数

7月～9月 延べ 1,110人